

全重協近畿障害者就労フォーラム IN 滋賀（2007年12月12日） 基調講演用
NPO 法人ストローク会副理事長 金子鮎子

◎経歴と精神障がい者に関わるようになったのは、なぜか。

ニュースのカメラマンや研修の仕事。

心の問題に取り組むようになったのは、どうしてなのか。

「日曜サロン」の活動。

◎精神障がいある人達とともに働くことになったきっかけは。

親や本人に頼まれて清掃業者に紹介するように頼まれたが、皆続かない。

1人だけ長続きした。清掃の仕事は、障がいある人達にとって良い仕事だ。

定年後、会社ストローク会を設立。

その中での工夫。

◎精神障がいある人達とともに働くことの体験から。

“朝起きられない病”ではなく、生活の習慣だ。だとすれば習慣は組み立て直すことができる。

働きたいならば、一緒に工夫しよう。

その人の現在の生活状況を聞かせてもらい、生活（生活のリズム—食事・睡眠等の自己コントロール）を組み立て直すことを一緒に考える。

ただし、子供扱いにしない。ある距離感を保つことにも注意する。

また、その人も得意なこと、馴染みやすいことを掌握する。

病気をしたことで、挫折感を味わい、家庭では、“ダメ人間扱い”されてることが多いので、働く中で自信をつけたり、ほっとできたり、安心できる場であること経験してもらおう。

◎環境や制度が追い風になってはいるが...

環境や制度ができて、動かすのは人です。

企業の経営や、障害者の雇用も“人をどう生かすか”が元ではないでしょうか。型通りだったり、上から目線の医療関係者や支援者には疑問を感じます。

障がいがある人達も体力や自己管理する力をもっと高めよう。
そのための工夫を周囲の人もさらに応援したいものです。

◎精神障がいがある人達と一緒に働く人へのエール

障がいがある人達も一人一人違います。障害の種類よりも、その人が何に困っているのか、教えてもらうことから始まるのではないのでしょうか。ただ少しだけ、不安が強かったり、自信がないため、諦めやすい傾向があります。

心を割って率直に良く話し合い、少しずつ信頼関係を築きたいものです。

腫れ物にさわるような態度は、禁物だと私は考えています。

でも、こちらの都合や感情にのみ走り過ぎないように。

(それには、相手のちょっとした反応を「ん？-どうしたのかな？」とキャッチ出来る感度を高め、ためらわずに、訊いてみるのも手ではないでしょうか)。

障がいがある人達の力を生かすには、どうしたら良いのか。

働く場、そして何より一緒に働く私達の中でこそ、その力は育てられ、成長するものだと、私は感じています。

諦めずにいろいろと一緒に工夫してみましよう。